# 肉親を亡くして❷

## 幼児の遺体をバケツに詰め込む母

❶白石千津子　❷14→44　❸8/7　❹－

半裸の女性が愛しい我が子を捜し求めてか、いびつになったバケツに幼児の死体を詰め込んでいるのです。バケツからはみ出た内臓の鮮やかな色が太陽の光を受けて光っていました。

## 死んだ子供をどこで焼こうかしら

❶松室一雄　❷32→61　❸8/7　❹富士見町

背中にぶらさげた子どもの顔の火傷跡には白いウジ虫が動いていた。拾った鉄カブトは、子どもの骨を入れるつもりだろう。よほど遠くまで行かねば焼く材料となる物は全くない。

## 長女を自分で焼く

石風呂環　❷35→65　❸8/7　❹－

長女尚子（3才）を自分で焼く。泣けて泣けて涙が止らない。「私も行く。先に行って居て呉れ」と、手を合わす。

だんだん焼けて体の中の油が流れ出る。大変な量だ。元気な子を焼くのだ。可哀想だ。見て居られない。気が狂いそうだ。これが現世とは思へない。地獄だ…

## 市役所で遺骨をもらう

❶宮地臣子　❷34→64　❸9/15　❹広島市役所

似島の収容者名簿に「名不明二中一年生」とあった。これかもしれないと、一握りの骨を箱の中からもらい、汚れたハンカチに包んだ。この大きな背骨は子どものではないと思うと、涙があふれた。